

防災・救急に役立つ日用品活用法

— 防災意識を日ごろから高める —

日 時：令和元年11月18日（月）15：20～16：10（7限目）
主 催：愛知県立 碧南高等学校
目 的：防災に関し、救急に役立つ日用品活用法を専門家から活動内容を聞き、起こりうる災害に対し、防災・減災の知識を学びとり、日ごろから防災意識を高める。
参 加 者：1,018名（1年生320名、2年生317名、3年生317名、教職員64名）
講 師：NPO 法人 愛知県防災士会 防災士

羽田 道信（防災アドバイザー、研修委員）

ファシリテーター：寺島、森、加藤（和）、高木、阿部

防災講演開催当日の午後3時10分ころから、全校生徒さんは体育館へ集合され、定刻の午後3時20分に伊豫田校長先生から羽田講師の紹介をして頂いた後に、「防災・救急に役立つ日用品活用法」講座へ移らせて頂きました。

約1,000名の生徒さんが体育館に集合されている光景は、見慣れていないせいか壮観と言う感じを受けました。後方に座っている生徒さんからは、壇上に上がっている講師の顔が、はっきりと見えないくらいになっていましたが、防災に対する講師の熱意と説明は、しっかり伝わっているようでした。

① ビニール（透明）袋の活用

建材が火事で燃焼して有害なガスや煙が発生した場合、避難経路をたどっていく際に、空気を大きめなビニール袋に溜め、そのままビニール袋を頭からすっぽりかぶり、裾にあたることをねじりすぼめて、外から煙や有害なガスが侵入しないようにすると避難するための3～5分の時間を稼ぐことができる。



校長先生から紹介を受ける羽田講師



ビニール袋を頭からかぶる講師

また、身体の60%を水分が占めているので、脱水症状や熱中症を予防するために水分を摂取する必要が出て来る。その他にも、調理用や手を洗ったりすることに使われる。指定避難所へ行くと給水車から1回につき20リットルの水を貰うことが出来るので、ビニール袋に溜めてもらい、取手を作るために本結びにして、持ちやすいようすると、高層マンションの階上へ持っていくのにも便利である。

その他に、ここではあえて不透明の中くらいのビニール袋は、簡易トイレとしても有効に使える。

また、スーパーのレジの時、或いはレジを済ませた後、カウンターにロール状に巻かれた大小2種類の見慣れている透明ビニール袋（耐熱性ビニール）は、停電の時に温かい食事を摂る時に有効に使える。用意する物は、カセット卓上コンロとそのガスコンロに適合するガスボンベと水を入れる鍋。そして、水と食材、調味料、スパイス等があれば、個人個人の好みに合わせたバリエーションある食事が可能となる。

② サランラップの活用

サランラップは、止血や骨折の時、三角巾の代用として有効であり、こよりの様に紐状にすると縛る道具にもなる。更に、紐状のものを三つ編みにすると強度が増し、ロープ代わりに活用できる。また、食器の上にサランラップを敷き、食材を乗せると水が貴重な時に、食器をいちいち洗わなくて済む。その他の活用にこぶし大にサランラップを丸めて、食器洗剤用スポンジの代用にもなり使い捨てが可能となる。

③ 傷病者の搬送方法

3年生の女子生徒さん3人にご協力を願って壇上へ上がって頂き、災害に見舞われ自力で歩けない傷病者を想定して2人掛かりで、移動させる方法を実践して頂いた。

救助者は、向き合い傷病者右側の人は右手首、左側の人は左手首を傷病者の腿に当たる位置に組み、救助者双方の残っている手を互いの肩に乗せ、傷病者が後方にのけぞらないようストッパーの役目を果たす。傷病者は、両腕が使えるようであれば、救助者の両肩に腕を回す。そして、救助者は、傷病者が落ちないようにゆっくり立ち上がり進行方向に態勢を向けて進む。



女子生徒さんによる搬送実演

この実演に習い全校生徒さんに3人一組となって、傷病者の搬送方法を実践して頂いた。

④ 担架による傷病者搬送方法

今度は、1年生の男子生徒さん9人に壇上へ上がって頂き、仰向けになった1名の傷病者を8人の救助者で移動させる方法を実践頂いた。

傷病者の足元の方を進行方向とし、救助者4人が向き合い手首を互い違いにヒューマンチェーンの様にほどけない組み手を取って頂き、傷病者の頭の方からゆっくり足元の方へと連鎖させながら持ち上げて、救助者は進行方向に態勢を向けて進む。

この実演に習い全校生徒さん9人が一組となって、傷病者の担架搬送方法を実践して頂きました。



男子生徒さんによる搬送実演

⑤ 毛布による防寒方法

災害が発生した時が冬とか寒かった場合、身体が動かなくなってしまうので、毛布1枚で防寒着にする実演を3年生の女子生徒さん1名にご協力を頂き実践した。

着こなしは、毛布を着物の要領で着て、腰ひも1本を止め結びにして温かく、且つ、着こなしが崩れないようにする方法を説明して、持ち時間50分（7限目）を有意義に使わせて頂いた。

最後に全校生徒を代表して、2年2組の倉内君が登壇され、『短い時間でしたが、私たちに身の回りにあるものを活用して防災と救急に関する講話を頂きました』と講師に対する感謝の気持ちを込めた挨拶を頂きました。このほか、今回の防災講演に関してのアンケートに高校を挙げてご協力を頂き、約100%の回収率に愛知県防災士会として感謝を申し上げます。



女子生徒さんによる防寒方法



全校生徒を代表してお礼の言葉